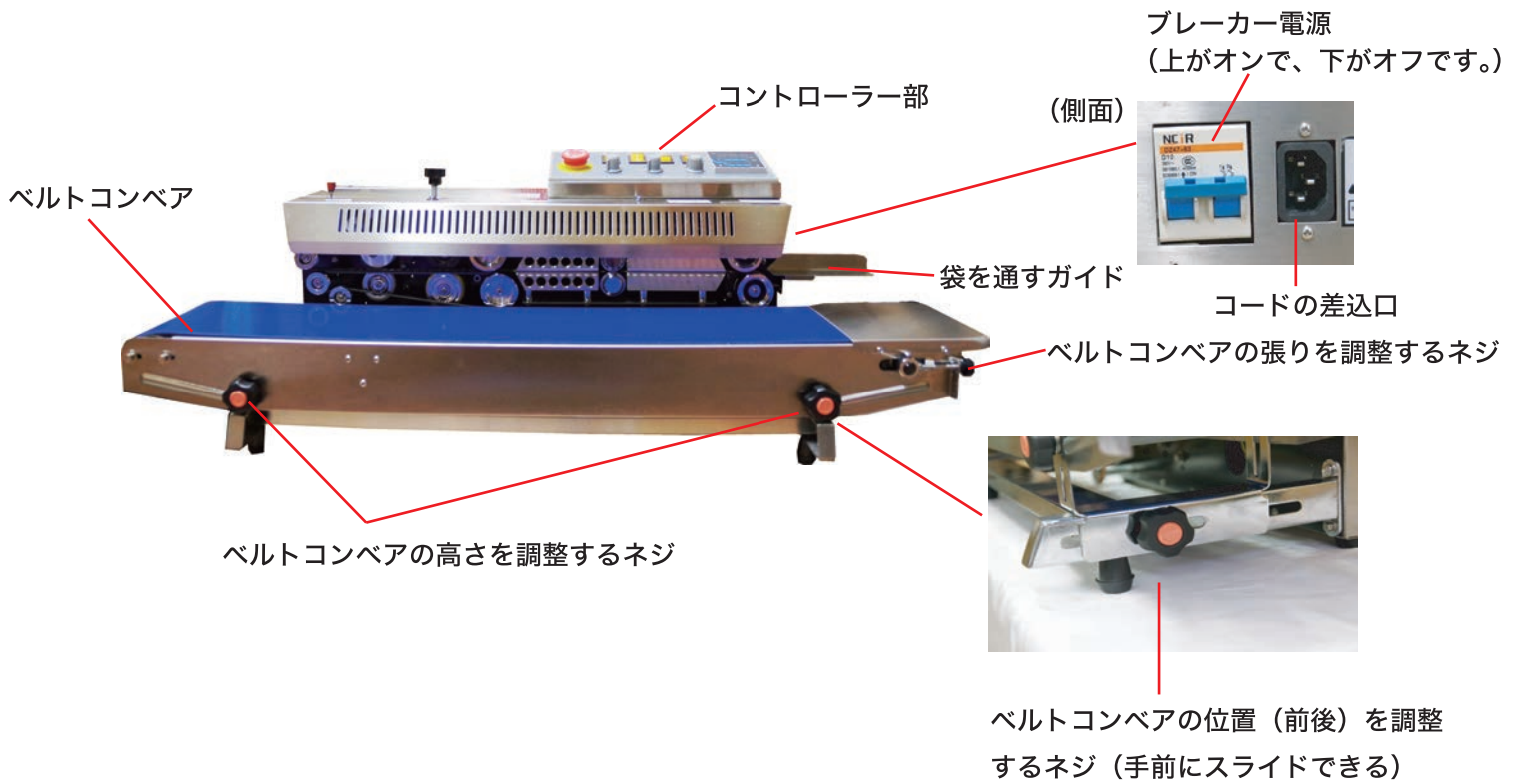
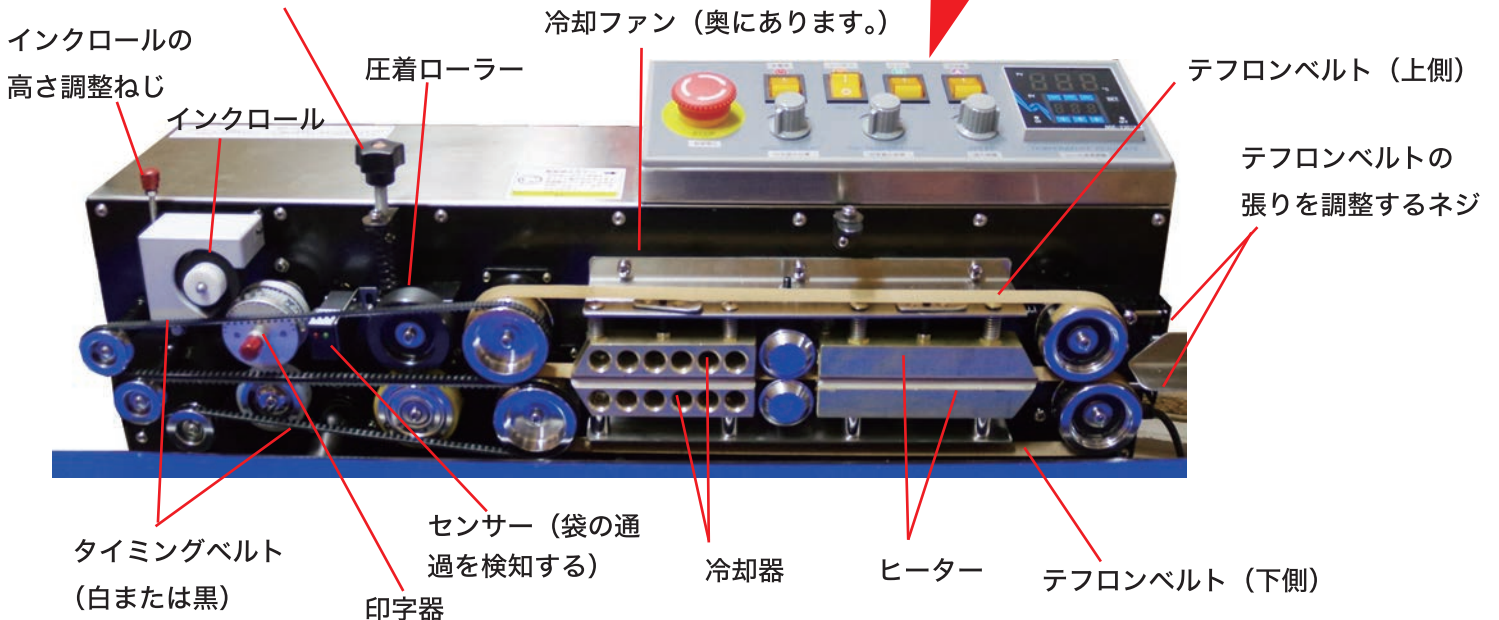


全体図



カバーを外した状態

圧着ローラーの調整ネジ (ねじ山が1CM見えるぐらいにする。強くしすぎると、袋が破けてしまう。弱すぎるときれいにシールできない)



早速使ってみましょう。

①試しに温度を 130℃にセットして、主電源とヒータースイッチを ON にする。

(極薄の袋 (0.03) の場合、105℃から試してください。溶けすぎて、カスが中にたまるのを防ぐため)

■コンベアの速さを調整する送り調整は、時計の針でいうと10、11時ぐらいがちょうどいいです。

コントローラー部



緑のランプが光っている間は温度が上昇していく。



赤いランプが光ったら、指定の温度に到達したサインです。

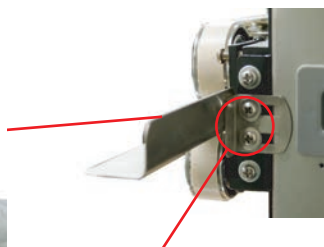
一般例：ナイロンの厚み
0.03 / 110℃
0.06 / 115℃
0.6 / 130℃
アルミレトルト / 150℃

②約 2 分後

温度が 130℃を示し、OFF のランプ (赤) が光ったら、130℃に到達したことを意味します。袋を通してみてください。この時、袋が溶けすぎて、しわしわになっていたら温度を下げる。くっついていないときは温度を上げる必要があるのですが、少しずつ (+10 度ぐらいずつ) 上げて、きれいにシールできる温度を探してください。



袋を両手で持ち、ガイドに沿って入れる。
コンベアに乗ったら、手を離しても大丈夫です。



ガイドの位置を調整することでシールの位置を調整できます。



手で引っ張ってみて、しっかりくっついていないか確かめてください。

■シールをきれいに仕上げるには、ちょうど良い、温度と、圧着ローラーの強さと、コンベアの速さ、で決まります。

注意点、その他

作業が終わったら、すぐに電源を切ってはいけません。(重要)

①まず、ファンの電源を入れる。

②温度を0にして、温度計が60℃以下になるまで、そのままコンベアを動かす。

(約15分)

理由：すぐに主電源を切ると、ヒーターがテフロンベルトの一部のみに熱を加え続けるため、テフロンベルトがすぐに劣化し、切れてしまいます。

③温度が十分に下がったら、主電源を切ってください。

緊急停止ボタンは普段は使いません。

本当に緊急時以外は触らないでください。

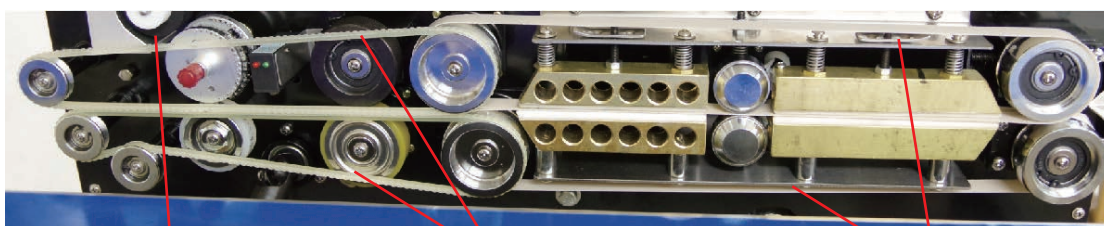
(押すと瞬時にすべての動作が止まる矢印方向にひねると、再びボタンが上がり、機械を動かすことができます。)

もしくは、ヒーターのスイッチを切り、ファンのスイッチを入れ、タイマーで15分計ってから主電源を切る、でもかまいません。

壊さないための注意点

- ・長い時間（連続稼働時間目安2時間）稼働させたら、たまに機械本体を触り、異常に熱を帯びていたら、1～2時間休ませること。
- ・極端にぬれた手や、粉が付いた手で、スイッチ類を触らないこと。
- ・なるべく風通しの良いところに設置してください。冷蔵室内など、湿気が多いと故障の原因になります。
- ・たこ足配線は、電圧低下につながり、電子部品の故障の原因になります。おやめください。

メンテナンス、消耗品の交換



インクロールの交換

(約2万印字で交換が必要です。)

タイミングベルトの交換

テフロンベルトの交換、掃除

テフロンベルトにナイロンのカスがくっついたり、古くなり磨耗するときれいにシールできなくなります。テフロンベルトに付いたカスをとったり、ぼろぼろになったら、テフロンベルトの交換が必要です。

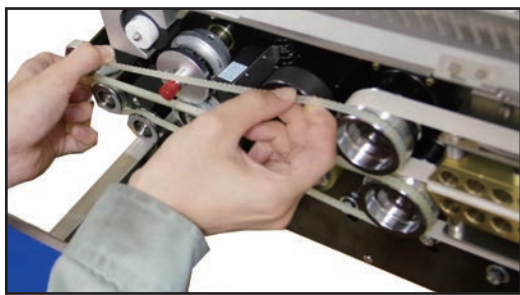
タイミングベルトとテフロンベルトの交換

まず、作業しやすいよう、準備します。



ベルトコンベアの位置をできるだけ手前に、そして、ベルトの高さをできるだけ下げると作業がしやすいです。(ベルトコンベアの位置、高さ調整は6ページを参照ください。)

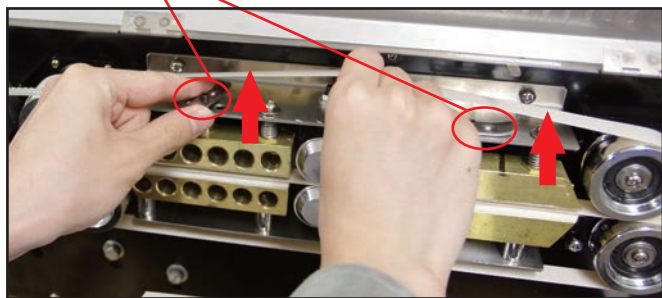
①2本のタイミングベルトをよじりながら外します。



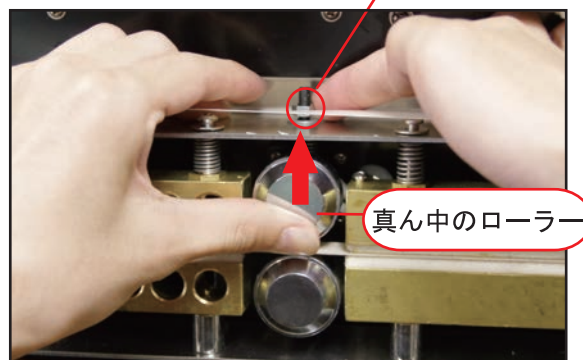
どうしても硬くて外しにくいときは、ひも状のもの(輪ゴムだったら2、3本)入れて、手前に引っ張りながら、電源を入れ、スピードを最低で動かします。すると、よじれて、ベルトが外れます。(指を挟まないように注意!)



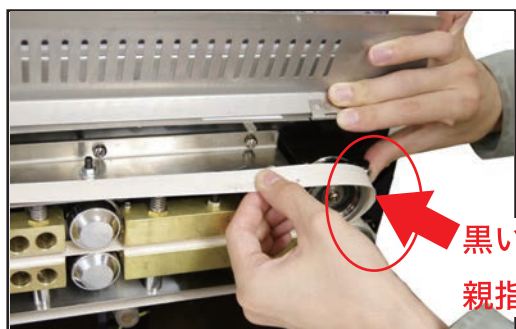
②2つのつまみを90度回し(右回り)、部品を浮かせます。
基本的に、90度回せば浮かしますが、作業しにくいときは何回か回転させると、より浮かします。



③写真の位置のネジを締めると(右回り)真ん中のローラーも浮いていきます。



④ローラーの土台を左に強く押すと、スライドします。そしてテフロンベルトを外します。(上下とも) 同じ要領で、ベルトをかけます。(左手でベルトを固定し、部品の間を通して、ローラーの土台を左に押しながらかける。)



黒い土台部分を親指で押す。

次ページへ

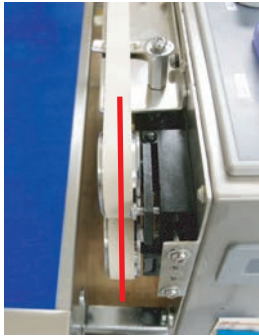


タイミングベルトとテフロンベルトの交換の続き

⑤ 2つのテフロンベルトをかけた後、電源を入れ、1～2分空回しをして、上下ベルトの位置にずれが出ないかチェックします。

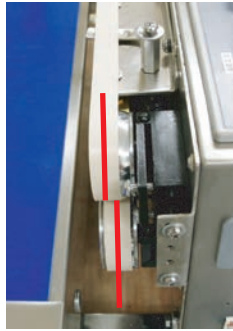
○ 良い例

上下のベルトがそろっている

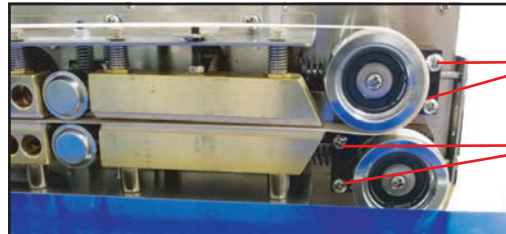


× 悪い例

上下のベルトがずれている



⑥ もし、上下のベルトがずれていたら、各土台のネジで、ベルトの位置の調整が可能です。



一度にたくさん回さず、微調整してください。

⑦ ②で回したレバーとネジを元に戻し、浮かせたヒーター、真ん中のローラー、冷却器が完全に下に下がっていることを確認してください。



3つの部品がぴったり下がっているか、今一度ご確認ください。

完全に下がっていないときれいにシールできません。
(超厚手の袋(アルミのガゼットタイプなど)を使用する場合、ヒーター、冷却器を若干(0.5ミリ)ぐらい上げたほうが良い場合もあります。)

外したときと同じ要領で、タイミングベルトもかけます。
下側を先にはめると、やりやすいです。

トラブルに関して (あくまで参考です。詳しくはお問い合わせください。)

■電源が入らない→

緊急停止ボタンが下がっていませんか？ または、コード(本体側)を一度抜き、ぐぐっと奥まで差ししてください。
電源スイッチ(赤色)が壊れた可能性あり。緊急停止ボタンが壊れた可能性あり。

■きれいにシールができない→

温度、スピード、圧着ローラーの調整が不十分な可能性あり。テフロンシートにごみが付着している可能性あり。

■温度が上昇し続ける(みどりのランプが付きっぱなし)→

温度調整器が壊れた可能性あり。

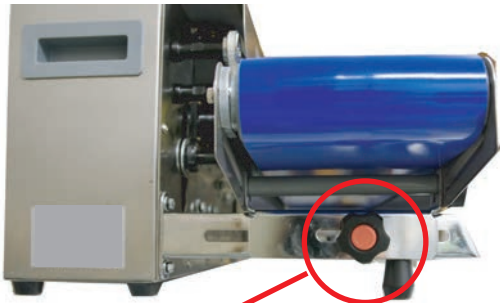
■温度が上がらない(ヒーターの電源ランプが点灯しない)→ヒーターのスイッチが壊れた可能性あり。

(ヒーターの電源ランプは点灯する。温度調節器またはヒーターが壊れた可能性あり。)

■電源ランプは付くが、モーターが動かない→

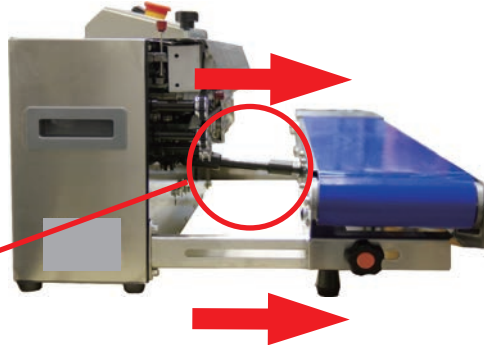
モーターコントローラーが壊れた可能性あり。モーターブラシが磨耗し、交換が必要な可能性あり。

ベルトコンベアの位置調整

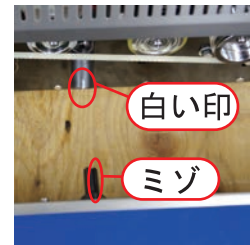


コンベアの下にねじがあります。(両脇に2つ)
このネジを緩めると、コンベアが手前にスライド
できます。

大き目の袋(長さ30cm以上)
をシールする場合、シャフトの延長棒
(別売)使うとさらに85mm
引き出すことが可能です。



注意点: 9cmを超えて引き出すと、つないでいる棒(シャフト)
が外れます。外れたら、印とミゾを合わせてつないでください。



合わせるときはベルトコンベアを
手で押してスライドさせ、ミゾの
位置を合わせる。



ベルトコンベアの高さ調整

手前2つのねじを緩めて、ベルトコンベアを任意の高さに調整できます。



手前2つのねじを
緩める。

コンベアの位置を調整するときの注意

横位置、高さのどちらも、水平に歪みなく調整すること。
左右のバランスが悪いと、シール中に袋がだんだんずれていき、
きれいにシールできません。



平行



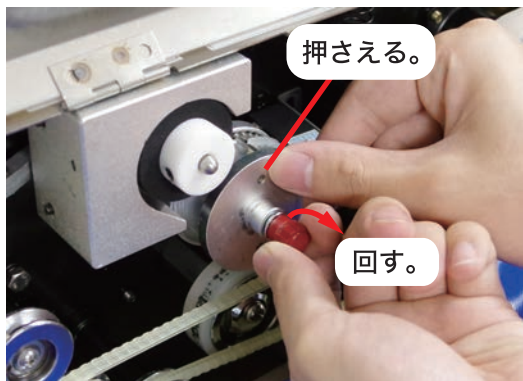
平行

印字用のコマをセットする。

上側のタイミングベルト

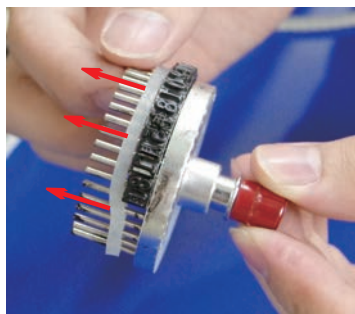
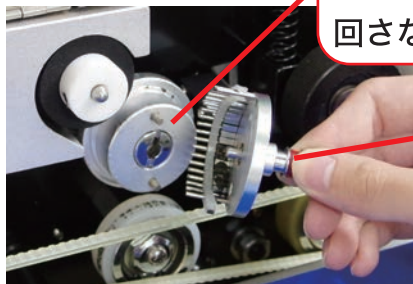


①上側のタイミングベルトを外す。



②右手で金具部分を押しえて、左手で赤いつまみを右に半回転ほど回すと、赤いつまみが5ミリ飛び出す。
→そのまま引っ張る。

注意：この部品は手で回さないこと



③シリコンゴムを外す。続いてコマを外す。(インクが固まってコマが外れにくいときは、写真5のように、叩いて外してください。)

または灯油かシンナーに30分ほどつけておくと、すんなりと外れます。

右端は空けておく。

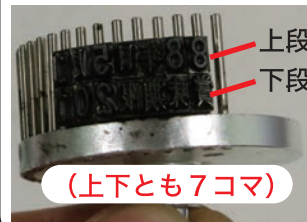


この位置が文字の先頭

⑥右端は1つ飛ばして、2列目から文字を入れていく

2段にするときには、上下のコマの数が合うようにする。

○良い例

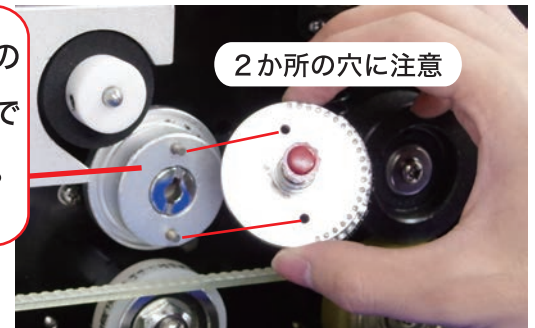


×悪い例



注意：この部品は手で回さない。

2か所の穴に注意



⑦再び、シリコンゴムをしっかりとめる。

⑧2か所の穴の位置に注意して、コマが右側に来るように元の位置にセットする。

×悪い例



○良い例



コマが左側に来ている。

コマが右側に来ている。

最後に赤いつまみを押しながら4分の1回転回す。(つまみがへこんでいたらOK。回し過ぎてまた飛び出して来たらダメ。)

実際に印字してみる。



主電源、ヒーター、印字器のスイッチをONにする。
 印字器の温度のダイヤルを右に回らないところまで
 回す (MAX)。本機械は熱溶融インクを使っています
 ので、印字ができるようになるまで
10分間空で動かす。そしてインクが溶け出すのを待つ。
※印字が出来るようになったら、必ず目盛りを戻して下さい。
(時計の針でいうと3時ぐらい) MAXだと溶けすぎます。

印字の位置の調整



カバーを上げて印字器が見える状態で位置を調整する。

9時の位置にする。



① とりあえず、印字器の位置のボリュームを9時の位置にして、袋を通す

印字位置を確認。→ より左に印字したい場合は
 ボリュームを左に回し最小に。
 より右側に印字したい場合は
 ボリュームを右に回し
 10時、11時の方向に
 と上げて調整していく。



注意点

- 1、ボリュームを上げるほど右に印字されるが、メモリを12時や1時の位置にして、袋が小さいと右に行き過ぎて印字されません。
- 2、コンベアの速さ(送り調整)を変えると、印字位置が変わります。

印字のしくみ



袋を感知するセンサー

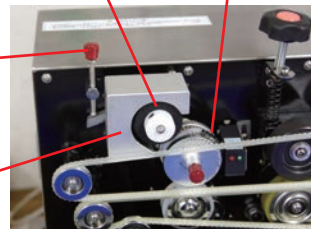
印字するタイミングを調整する仕組みとしては、上の写真のセンサーが袋が通過したことを感知します。感知後、何秒後に印字器を回転させるかを、「印字器の位置」のボリュームで調整します。

熱溶融インクロールの位置の調整

印字器の温度をMAXにしても、インクがかすれてしまう場合、下記方法で熱溶融インクロールの位置を調整してください。

インクロール コマ(文字)

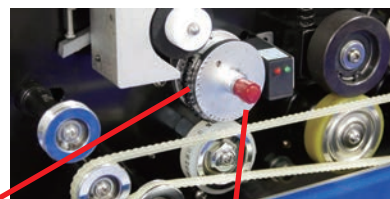
このネジでインクロールの高さ(コマとの距離)を調整する。



インクを溶かすヒーター(熱いので触らない!)

ネジを左に回すと下がる(印字が濃くなる)
 ネジを右に回すと上がる(印字が薄くなる)
 インクロールとコマが軽く触れるぐらいがちょうどいいです。
 当たり過ぎているとベチャツとした印字になるし、離れていると印字がかすれます。

印字器の位置がどうしても逆に来てしまう場合



袋を通すと、どうしても印字のコマが左に来てしまう場合。

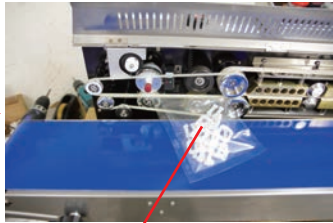
印字器を外し、今ついている状態と180度逆に付けるだけでOK。

その他必要事項

印字する位置で袋がぐにゃっと曲がる
または印字の圧力が足りない。



袋がこの位置に来た時



このように袋がぐにゃっと
曲がってしまう（回転してしまう）
場合、以下の操作をしてください。

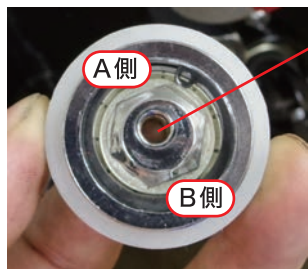


真ん中のねじ

重要

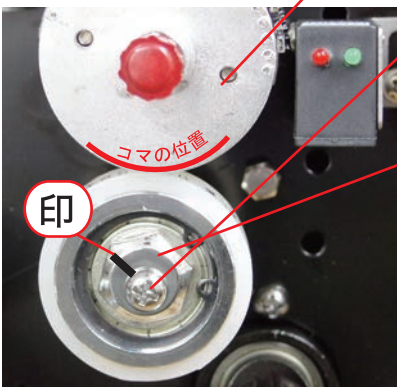
外す前に、六角部分
にマジックで印を
つけてください。

このローラーの高さを上げたり下げたりできます。
まず、仕組みを知るために真ん中のねじを外し、
ローラーを外してください。



穴の位置がわざと中心からずれてい
ます。つまり、A側を上にするばさ
まが開き、B側を上にするば、隙間が
なくなります。
このように無段階に調整できます。

まず、印字器を回転させ、
コマを下にもってくる。



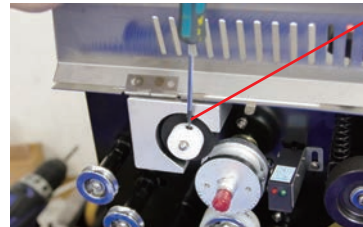
①真ん中のねじを仮止め
する。

②指でつまむか、17ミリ
のスパナで六角部を回転させ
最初につけた印を参考に微調
整してください。

- ・袋がぐにゃっと曲がってしまうなら隙間を開ける。
- ・印字の刻印が薄いと感したら隙間をなくし圧力を高める。

インクローラーの交換のやり方

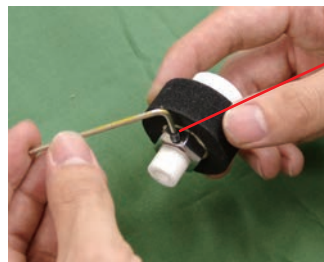
・約2万回の印字で交換が必要です。



①このネジを3回転ぐら
い緩める。(完全に抜かない)



②白い部分をつまんで
引っ張って、引っこ
抜く。



③六角レンチで穴付き
ボルトを緩めてナット
を外す。



④インクローラーを
引っこ抜いて外す。

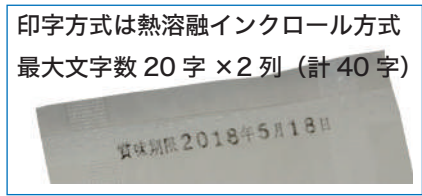
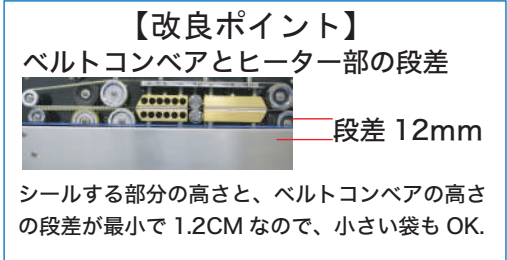
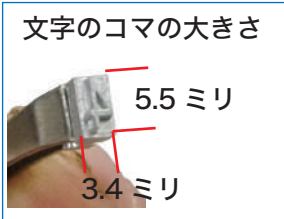
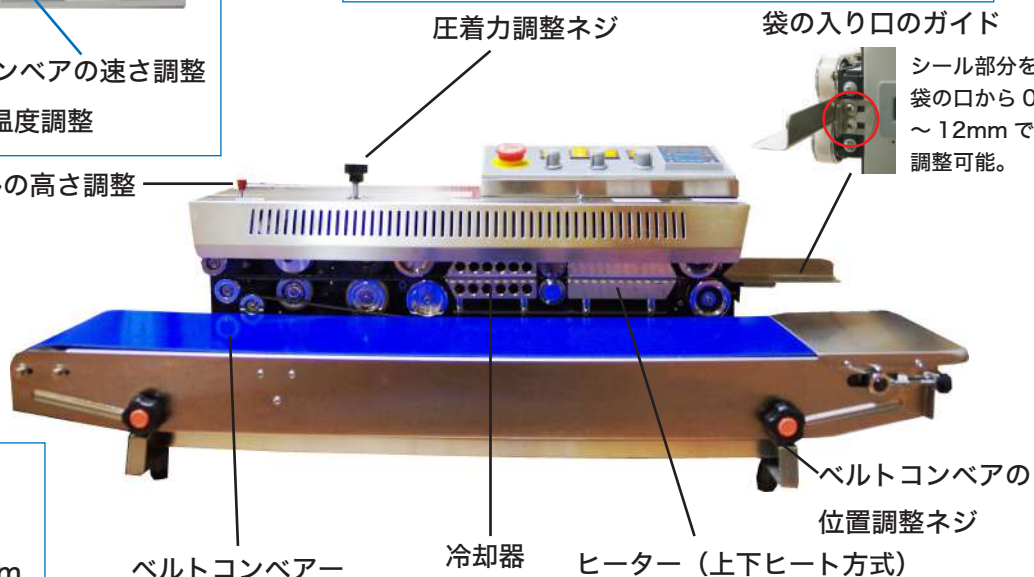
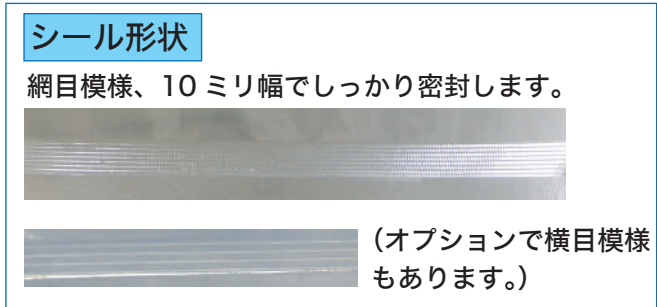
取り付け時の注意点

取り付けるときこのネジを強く締めすぎると、



このプラスチック部が変形してしまうので、
絶対にきつく締め付けないこと。(変形すると
穴がつぶれて機械にセットできなくなります。)

エンドレスシーラー SFRB-810



用途：ポリ系の袋のシール（袋を熱溶着し、密封します。）
 注意：OPP素材の袋で、一部不向きなフィルムの材質がございます。
 熱溶融インクのインクロールは約2万回の印字で交換が必要。

型番	SFRB-810
電圧	100V 50HZ/60HZ共通 600W
外形寸法	横960×縦380×高さ350(mm)、ベルトコンベア部のベルト幅は135mm
重量	28kg
シール温度	0℃～200℃
ケース材質	ステンレスボディー
シール幅	10mm(シール模様は網目状)、(袋の口の遊び部分は0mm～12mmで調整可能)
注釈	電源を入れてから、シール機能は約2分で、印字機能は約10分で使用可能。

(株) グランテクノ
 03-6658-5655 info@mopack.jp
 http://mopack.jp